



花乱れ咲く柏陽

恵庭市立柏陽中学校 校長室から

令和7年1月31日（金）16号

校長 前田 真志

<節目の年>

生徒に手書き通信を発行しました。今日で17号となります。その通信には、タイミングを失した感がありましたが、2つの節目について書きました。

1つ目は、阪神・淡路大震災から30年経ったということです。この通信を読んでいた方は、様々な場所で、この災害を見聞した方もいるかと存じます。

私は、朝からテレビに釘付けとなりながら、高速道路がなぎ倒された映像が頭に残ったまま、学校へ出勤したのを覚えています。炎に包まれた神戸市の様子は、現実とは思えないもので、まるで映画でも見せられているような気持ちになりました。この1995年以降も、国内では、多くの自然災害に見舞われています。

2つ目は、1945年の第二次世界大戦終結から80年目にあたるといことです。日本は敗戦の後、奇跡的な復興を遂げ平和を享受していますが、残念ながら世界では、戦禍が絶えない状況が続いています。平和とは何か、ということを生徒に説きました。

この2点は、お読みいただいている方の御家庭でも話題に上がったことでしょうか。

さて、3つ目は、生徒には伝えておりませんでした。この節目もありました。昭和元年、1925年から、100年にあたる年であるということです。「昭和」という言葉が、古くさいという意味で世の中に敷衍している昨今ですが、私は昭和の高度経済成長期に中学生、大学4年生から就職期に昭和64年から平成元年となった年を過ごし、「バブル全盛期」を経験した世代です。

経済面を見れば、バブルからのこの期間は、「失われた30年」とも言われる状態でしたが、2025年、令和7年が生徒にとって、皆様にとって実りのある年になればと思います。2月からの教育活動への御支援、御協力をお願い申し上げます。

<地域との結びつき>

1月20日（月）放課後のHFD(柏陽フリーデー)に、学校運営協議会委員長の茶園利紀様を講師にお招きして「スポーツは一生の宝」と題したお話しを、生徒にさせていただきました。

ソフトボールの競技者として、また審判として元日本代表の上野選手の試合にも立ち会うほどのお方です。生徒は自分の部活動に置き換えて熱心にお話しを伺いました。

また22日（水）には、若草小学校において、第3回学校運営協議会（コミュニティ・スクール；CSともいいます）が開催されました。

若草小、柏陽中共に、年度末職員自己評価について説明し、集約させていただいた学校関係者評価を確認し、承認を得ました。関係者の皆様には、年末のお忙しい時期に私たちの職員評価の適切さや教育活動に対する御助言等いただきましたことに、御礼申し上げます。

どちらの取組も、保護者・地域の皆様の応援なくては成り立ちません。これからも、柏陽中生徒のために、お力をお貸しいただけると幸いです。

